

体験学習センター うみかぜテラス



海の近くで、風の気持ちよさを感じれる場所になつたらいいなと思ってつけました。

「選ばれてうれしい」と遠藤花穂さん。(小学校2年生)

2019年1月オープンの
施設の愛称は

「うみかぜテラス」

茅ヶ崎公園体験学習センターがみなさんに愛され、より長く親しまれる施設になるよう願いをこめて、愛称募集を行いました！みなさんから提案いただきました109点の愛称から、最終的に遠藤花穂さんが提案した「うみかぜテラス」に決定しました。



「こうなってほしい」という思いを市に届けてください！

みなさんは「市民参加」という言葉を聞いたことがありますか？

市民参加とは、みなさんが市や地域で取り組むまちづくりに関わっていくことです。ライフスタイルや価値観が多様化するなかで、誰もが暮らしやすいまちづくりを進めるためには、さまざまな場面でみなさんの意見を取り入れることが不可欠です。

そこで、市ではみなさんの思いをまちづくりに反映するための基本となるルール(市民参加条例)をつくり、市民参加をしやすい環境づくりに取り組んでいます。

この「市民参加特集号」では、みなさんの思いがカタチになった事例や、今後の市民参加の機会などについて紹介しています。暮らしやすいまちをつくるために市民参加の第一歩を踏み出してみませんか。

みなさんの思いには、このまちをより良くする力があります。是非、みなさんの思いを市に届けてください！！

みなさんの思いを
届けて欲しいぞよ！



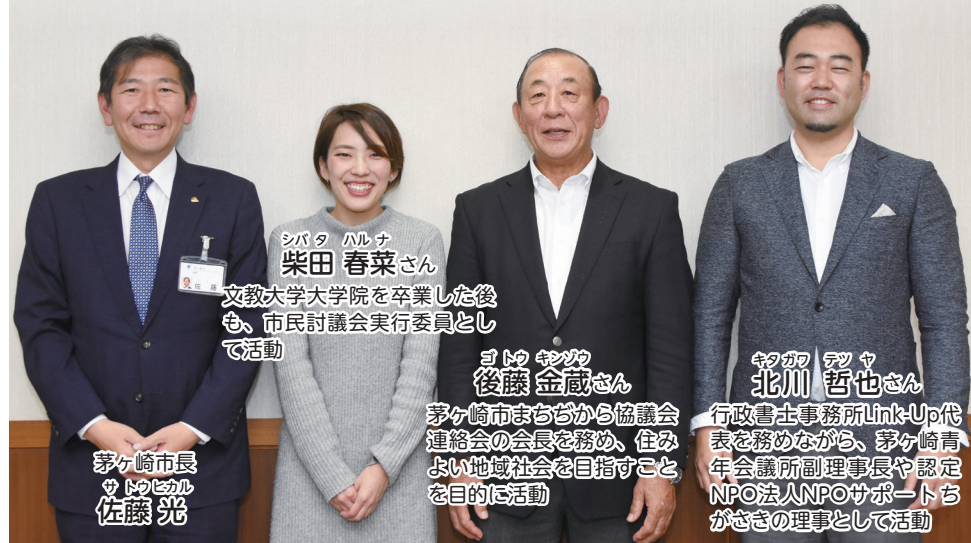
市民参加条例とは？ 「市民の意見の市政への反映」「市民と市の信頼関係」「市民と市の情報共有」を基本原則として、市民のみなさんからまちづくりへの意見をいただくためのルールを定めている条例です。

この条例では、条例や政策の計画段階から評価段階にいたるさまざまな場面で、市民参加しやすい環境の整備に努めること、市政に関する情報を積極的に提供すること、市民参加によっていただいた意見等に対する市長等の考えを公表しなければならないことなどが定められています。

平成29年度は、説明会や意見交換会、パブリックコメント手続など、この条例に定められている市民参加の方法を約100回開催しました。今後もこの条例のもと、さまざまな市民参加の機会を提供し、暮らしやすいまちづくりに生かしてまいります。

誇れるまち。 茅ヶ崎の未来を創るために。

市民のみなさんに「市民参加」をもっと知っていただきたいと思い、みなさまに、お話を伺いました。



茅ヶ崎の主役は？
市民のみなさんです！

市長 茅ヶ崎市では、まちづくりの主役である市民のみなさんとともに、さらに暮らしやすいまちにしたいと思っています。今日お集まりいただきましたみなさまには、日頃から、さまざまな分野の活動を通じてまちづくりの主役を担っていただき、ありがたく感じています。

北川 私も、茅ヶ崎で育ち、愛着を感じていて、まちを盛り上げたいと思っています。6年前、茅ヶ崎市のイベントでボランティアをしたことをきっかけに、いろいろな公益活動にチャレンジしてきました。今では、市の審議会の委員や、茅ヶ崎青年会議所(※2)の一員として茅ヶ崎を盛り上げる取り組みをしています。

後藤 まちのことを一番良く知っているのは、市民のみなさんです。私は、まちから協議会(※1)の取り組みに携わって5年経ちます。地域で過ごしていると、時代の流れでいろいろな問題や課題を感じることがあります。

こんな活動(参加)をしています！

茅ヶ崎市長 佐藤 光

茅ヶ崎市長 佐藤 光



北川 私もハマミナーには何度も行きました。公共施設にカフェが併設されており、バラエティ豊かな活動が生まれそうです。ね。

市長 若い方がいろいろなことに参加してくださると、まちがどんどん活発になります。ね。

柴田さんは大学院を卒業された後も活動を続けてくださっているのですか。

柴田 はい。大学院を卒業した後も実行委員として活動しています。新しい気づきがあり、何より茅ヶ崎を良くしたいという気持ちがあります。茅ヶ崎は大学時代を過ごしたとても愛着のあるまちなんです。

市民参加の大切さ！

市長 愛着をもっていたけると嬉しいですね。

市では平成26年4月に市民参加条例を施行し、市民が市に意見を届けやすい環境をつくり、その意見をまちづくりに反映させるルールをつくりました。

北川 地方分権改革により、地域性を発揮した行政経営が展開される時代になり、徐々に住みたいまちが選ばれる時代になってきました。

住みやすいまちをつくるために、私たち市民が、ニーズを伝え、まちづくりに参加する必要があります。と思います。

柴田 ちょうど、前回の市民討議会は「市民参加」をテーマと

意見を出し合うのですが、みなさんが、熱心で、楽しそうに発言していて、茅ヶ崎を強く感じます。

地域の声から
より安心なまちづくりに！

市長 茅ヶ崎と言えば海を連想される方も多いと思います。良いイメージがある一方、震災などの備えは重要です。後藤さんの地域では、津波一時退避場所(※3)を確保していただいています。

後藤 東日本大震災の惨劇の後、地域が海に近いため、津波対策を地域で話し合いました。地域と市、民間事業者が協定を結ぶことでマンション等の3階以上の共用部分に避難させてもらえる仕組みにし、地域で情報共有しています。

北川 災害に備え、事前に避難場所を決めておくことは大切なことです。いざ避難ということ、スマートフォンで市のホームページという地図や避難場所を確認したりすることもできます。

柴田 スマートフォンで確認できるようにしているのは助かります。私達は、スマートフォンで情報を探すことが多いです。

市長 市ではさまざまな情報ツールで防災情報を提供していますが、地域活動として周知したいだけでなく、より多くの人に広まりたいです。

北川 私が参加している市民活動推進委員会(※5)には、茅ヶ崎をもっと良くしようと、市民活動団体のみなさんから、事業提案がたくさん届いています。提案内容を伺うと、市民のみなさんの発想力や行動力に驚かされます。

市長 北川さんのお話にもありますが、自治体も選ばれる時代です。都市間競争が顕著となる時代では、市民のみなさんの声をしっかりと受け止めることが重要です。

柴田 少し前までは、市民として意見を発することなんて私達には無関係かと思っていました。でも、まちづくりについて思いを伝えることはとても大切だと思いました。そして、その思いがカタチになると嬉しです。

後藤 次世代を担う若い世代のみなさんが、住んでいるまちに関心を持ってくれると嬉しいですね。

行政と市民がしっかりとコミュニケーションをとって、誰もが暮らしやすいまちになって欲しいと思います。

北川 茅ヶ崎に愛着があると話ししましたが、たくさんの方が、このまちの良さを語れるようになるというのを考えています。

市長 今回のテーマである「市民参加」という言葉は、まだまだ馴染みが薄いかもしれません。しかし、身近な生活も含めた茅ヶ崎市のまちづくりに、これからも、より暮らしやすい魅力あるまちづくりに向けて取り組んで行くためには、まち



後藤さんの地域は他にもパトロール事業として地域で危険な場所を見つけ対策をされていると伺いました。

後藤 パトロール事業で夜に暗く危険な場所を見つけた場合、市に現状を伝えて、防犯灯を設置してもらうなど安全の確保をしている人います。地域で暮らしている人にしかわからないことがありますが、そこから。

柴田 防犯灯も地域からの声で設置されたりするんですね。とても身近で大事なことが、地域の意見でできていたのです。

北川 地域特有の課題を、意見を出し合って解決することの重要性が実感できます。

活動のきっかけは？

市長 後藤さんはどのようなきっかけでまちから協議会に携わることになったのですか？

後藤 私は定年後に、自治会活動に誘われたことがきっかけです。そこで知り合った地域の方々と活動できたことは大きな財産です。

柴田 地域活動は、若い人が少ないイメージがありますが、後藤さんの地域はいかがですか？

後藤 私の住む市の西部にハマミナー(※4)がオープンし、そこを拠点に人との関わりが生まれました。若い方の参加も増えて、まちが活気づいてきたと感じています。

北川 私が参加している市民活動推進委員会(※5)には、茅ヶ崎をもっと良くしようと、市民活動団体のみなさんから、事業提案がたくさん届いています。提案内容を伺うと、市民のみなさんの発想力や行動力に驚かされます。

市長 北川さんのお話にもありますが、自治体も選ばれる時代です。都市間競争が顕著となる時代では、市民のみなさんの声をしっかりと受け止めることが重要です。

柴田 少し前までは、市民として意見を発することなんて私達には無関係かと思っていました。でも、まちづくりについて思いを伝えることはとても大切だと思いました。そして、その思いがカタチになると嬉しです。

後藤 次世代を担う若い世代のみなさんが、住んでいるまちに関心を持ってくれると嬉しいですね。

行政と市民がしっかりとコミュニケーションをとって、誰もが暮らしやすいまちになって欲しいと思います。

北川 茅ヶ崎に愛着があると話ししましたが、たくさんの方が、このまちの良さを語れるようになるというのを考えています。

市長 今回のテーマである「市民参加」という言葉は、まだまだ馴染みが薄いかもしれません。しかし、身近な生活も含めた茅ヶ崎市のまちづくりに、これからも、より暮らしやすい魅力あるまちづくりに向けて取り組んで行くためには、まち

注釈

※1 まちから協議会

※2 茅ヶ崎青年会議所

※3 津波一時退避場所

※4 ハマミナー

※5 市民活動推進委員会



“カタチ”になっ たみなさんの声

みなさんの声が、まちから協議会の取り組みを支えています

松林地区

空き家を利用した
子育て世代の居場所づくり

松林地区では、数年来「子育て世代の居場所」に関する課題があげられていました。そこで、松林地区まちから協議会は、地域の空き家を借りて、おむすびや味噌汁などの軽食を提供し、地域の方が気軽に寄れる「居場所」づくりを行っています。



提供している軽食です

徐々に地域に定着し、幅広い世代の参加者も増えてきており、今ではなくてはならない世代間交流の場になってきています。



多いときは50人以上の参加者も

小和田地区

広域避難場所
案内看板設置事業

小和田地区では、大規模火災から避難する場所である「湘南カントリークラブ」への行き方、特に夜間の避難が課題にあげられていました。

そこで、地域が看板の選定や事業者との調整を行い、土地の地権者や近隣の自治会等の協力を得ながら夜でも光る看板を設置しました。地域の課題解決として、事前に避難場所を確認でき、災害時の備えに取り組んでいます。



蓄光タイプの避難誘導看板で迷うことなく避難が可能に！

市民討議会

「市民討議会」とは、無作為に抽出された職業も年齢も異なる市民のみなさんから出された意見を集約し、まちづくりに生かす市民参加の方法です。文教大学や茅ヶ崎青年会議所と市が連携し、実行委員会を立ち上げて運営しており、市民のみなさんの日頃の生活実感に基づいた話し合いが行われています。

市では市民討議会を平成21年度に初めて開催して以来、「防災」「福祉」「子育て」などに代表される多くの分野をテーマに平成30年度までに15回開催してきました。参加者のみなさんからいただいた意見は、報告書となって市へ届けられ、まちづくりへ生かされています。平成31年度も開催する予定です。



毎回、活発な話し合いが行われています

昨年11月は「コミュニケーションから考える市民参加の可能性～思いをつなげよう未来の茅ヶ崎へ～」をテーマに開催！！

当日は、市民参加を体験しながら、心に響く情報伝達の仕組みについて話し合ってくださいました。33名の市民のみなさんと実行委員が輪をつくり、和やかな雰囲気のもと、課題や解決策の話し合いが行われました。その結果、さまざまな視点からの討議結果が報告・発表され、充実した討議会となりました。いただいた意見は、今後、市民参加の輪を広げるための取り組みに生かしてまいります。



みなさんの思いから、さらに暮らしやすいまちへ

1 自転車レーンの設置

地域に住む方や自治会等が鉄砲道での自転車の安全利用を目的として、自転車レーン整備を市に提案しました。その思いが、市が進めている施策と重なり、円滑に事業を推進することができました。この地域では、歩行者及び自転車利用者が快適に移動できるようになりました。



両側の青色部分が自転車レーン車道と同じ左側通行です

2 夕方のチャイムは「赤とんぼ」

毎日、夕方に流れている「赤とんぼ」のチャイム放送は、以前「ウエストミンスターズ」という学校のチャイム音を使用していました。みなさんから「なじみのあるメロディー」との声をいただき、広報紙を通じて広く意見を募集したところ、市にゆかりのある童謡の「赤とんぼ」を希望する声があがり、カタチになりました。今では、すっかり子どもたちの帰宅時間の合図として定着しています。

4月～9月は17時に、10月～3月は16時30分に、お知らせしています



茅ヶ崎で作曲されました

3 小学生がつくる「自転車止まれステッカー」

市内では、自転車に関係する事故が多いという課題があります。そこで、子どもたちが、学区内で危険だと感じた交差点に、自らがデザインしたステッカーを地域の方や市などと協力して設置しました。子どもたちが感じた危険箇所の注意喚起を行い、さらに子どもたち自らが日頃の自転車の乗り方を見直すことで自転車の事故防止を図り、安全な暮らしに役立っています。

子どもたちが考えたオリジナルのステッカー



みんなで協力し、ステッカーを貼りました

このまちにみなさんの声を届けてください

市では、みなさんのご意見をいただきながら、さまざまな計画や条例などを検討し、暮らしやすいまちづくりに取り組んでいます。

特に来年度、再来年度は、茅ヶ崎市の目指す未来を決めていく大切な年となります。なぜなら10年後のまちの姿を描く「次期総合計画」を検討するからです。すでに今年度は茅ヶ崎の未来を描く「ちがさき未来会議」や、将来を支える若者からの考えを発表していただく「政策コンテスト」などを実施し、多くの「茅ヶ崎らしさ」を集めてまいりました。今後もさまざまな機会を通じてみなさんの声を伺っていきます。また、次期総合計画に合わせ、環境や福祉、教育等、さまざまな分野の政策や計画も見直していくことになります。この重要な節目に、このまちに暮らすみなさんの意見や考えをしっかりと受け止め、地域の実情に合わせたまちづくりを行っていきます。

10年後の茅ヶ崎は、どんなまちになっているでしょうか？
茅ヶ崎の未来は、みなさんの未来です。将来にわたり暮らしやすいまちを目指しましょう。

みなさんのご参加をお待ちしています！



「ちがさき未来会議」の様子

ワークショップ「ちがさき未来会議」に参加した ニシワキ ツヨシ 西脇 毅さん

参加したきっかけや感想

子どもにとっても住みやすいまちの未来について、話し合う事に必要性を感じます。茅ヶ崎に住むなら参加しないと！と思って参加しました。

参加してみて知らなかったまちのことを知り、気がつくこともたくさんありました。まちづくりのためには思いを伝えないといけないと考えますが、私たち市民からすると、誰に伝えればよいかわからないことがあります。

公民館や身近な場所で、話しやすい雰囲気のもと、市の担当者の方や、参加した市民の方とまちづくりを語り合えたらよいと思います。

子育てをテーマとした市民参加の機会があれば是非参加したいです。



審議会等※の公募委員としてまちづくりに参加する方法も！

みなさんのご応募をお待ちしています

特定のテーマについて話し合う審議会等では、委員の一部を市民のみなさんからの公募により選任しています。公募につきましては、広報ちがさきや市ホームページでお知らせします。 ※専門家や市民のみなさんの意見を市政に反映させるために、市長から委嘱された委員が、調停、審査、審議又は調査等を行う機関(附属機関)。



市民委員として活動した イイダ マサヨ 飯田 雅代さん

公募委員という市民参加

育児サークルに関わる中、広報紙で、市が市民活動団体の事業に財政的な支援をしている事を知り、どのように制度を運用しているか知りたいという思いから市民活動推進委員会(審議会)の市民委員になろうと思いました。

委員会では、私は市民活動の参加者という立場で発言していました。大学の先生をはじめ、いろいろな委員の方と、賑やかに議論することができたことや、委員会で知った市民活動イベントにもたくさん参加し、いろいろな人と知り合えたことは、今でも私の宝物です。

暮らしやすい私たちのまちへ

日々の暮らしの中で、課題や気になることがあっても、市に意見を届ける方法がわからない方が多いと思います。私の住む地域には、まちから協議会の取り組みがスタートしてから、地域の課題を届けられる「まちづくり提案箱」が設置されました。課題と感じることを投稿してみたり、身近な地域活動に参加することからスタートしてみるとよいと思います。

茅ヶ崎は、地元の方と新しい住民の方がバランスよく暮らし、また、海もあれば山もあるとても住みやすいまちだと感じます。

時代とともに新たな課題もでてきますが、このまちに暮らすみなさんが、積極的に意見を届けることで、さらに暮らしやすい自分たちのまちになるといいですね。

今後の市民委員の公募予定

公募時期	審議会等の名称	公募人数
2019年3月	ちがさき男女共同参画推進プラン協議会【男女共同参画課】	4名
	環境審議会【環境政策課】	5名
	市民活動推進委員会【市民自治推進課】	3名
4月	地域福祉計画推進委員会【福祉政策課】	2名
	国民健康保険運営協議会【保険年金課】	4名
	子ども・子育て会議【保育課】	3名
5月	美術館運営委員会【文化生涯学習課】	2名
	都市計画審議会【都市計画課】	2名
8月	地域医療推進協議会【地域保健課】	2名
12月	情報公開・個人情報保護審議会【行政総務課】	2名
2020年1月	教育基本計画審議会【教育政策課】	2名

- ・上記以外の審議会等についても市民委員の公募を実施することがあります。
- ・審議会等の名称や公募時期等は予定のため、今後変更となることがあります。



公募委員の募集

はじめよう市民参加！

手元に届く市民参加の情報源「広報ちがさき」！

市民参加に関する情報は広報ちがさきの「くらしの情報」欄に掲載されています。広報紙は市が実施しているさまざまな事業に関する情報のほかにも、パブリックコメントのお知らせ等を随時お届けしていますので、是非ご覧ください！



活用しよう地域の施設！

【地域集会施設】

地域での活動の場！市内11館の地域集会施設は地域密着型の活動をしたいあなたの舞台です！

【公民館】

主催事業への参加や学習の場、学習相談の窓口としても、市内5館の公民館をご活用ください。



SNSを活用を！

TwitterとFacebookでもさまざまな情報を発信しています。是非茅ヶ崎市のアカウントをフォローして、情報をシェアしてください！※Facebookのアカウント名は「いとしのちがさき」です。

市メール配信サービスに登録を！

市では登録制のメール配信サービスでさまざまな情報を発信しています。メールアドレスをお持ちであればどなたでも利用できますので、是非ご登録ください！



ちがさきメール配信サービス

「市民参加カレンダー」をチェック！

市民参加カレンダーでは説明会やワークショップ・パブリックコメント手続・審議会等のさまざまな情報を掲載しています。是非ご覧ください！



市民参加カレンダー

ご存じですか まちから協議会

市内13地区のうち12地区でまちから協議会の取り組みが進められています。

各地区の協議会は、自治会や地区社会福祉協議会、体育振興会などの各種団体のほか公募委員などが参加し構成されており、地区の課題を話し合い、市民集会や地域の防災訓練、運動会などの事業を実施しています。これらの事業は、地域の中の身近な活動として個人で参加することもでき、市民参加の機会となっています。

市内で行われるイベントや取り組みは、各地区の協議会や自治会などの地域団体が主体となって開催しているものも多く、各地区の協議会や茅ヶ崎市まちから協議会連絡会のホームページでも情報を確認することができます。みなさんの地域でどのような取り組みが行われているかチェックしてみたいかがでしょうか？



まちから協議会連絡会

さっそくアンケートにレッツ・ゴー！

市では市民参加条例が適正に運用できているかを検証するために、2月1日(金)より「市民参加条例の施行状況に関するアンケート」を市民のみなさんを対象に実施します。市民参加の第一歩としてアンケートに参加してみませんか？

- ・期間：平成31年2月1日(金)～2月26日(火)
- ・市Ⓔから回答することができます。
- ・アンケートは公民館や図書館、出張所などにもあります。

みなさんのご参加をお待ちしています！



市民参加条例の施行状況に関するアンケート